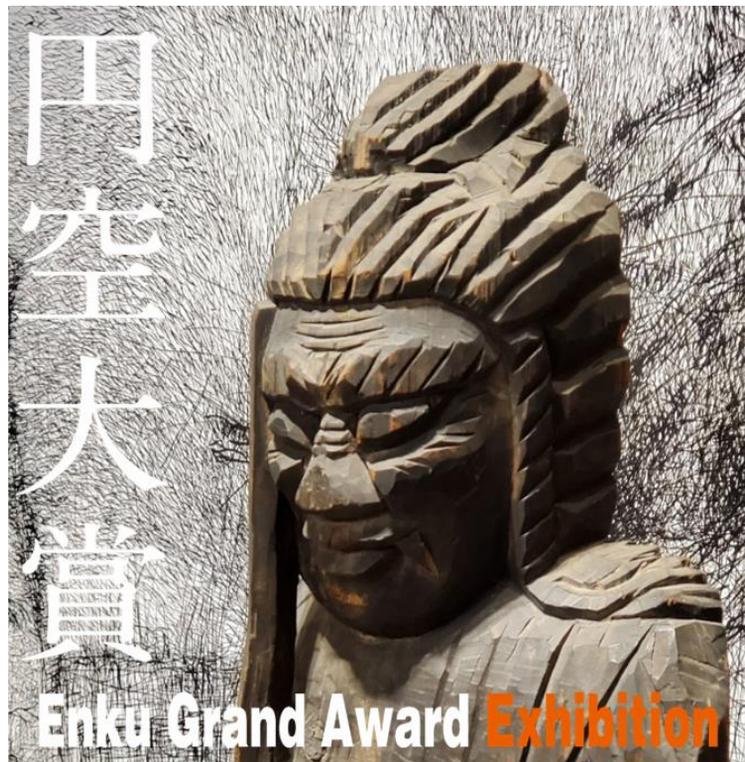


第11回 円空大賞

受賞者の選評および
作家略歴・作品写真





第11回 円空大賞の総評

総評

円空が日本各地に刻み残した仏像群は、その独創的な造形性において、大いに現代のわたしたちを驚かせ、強いインスピレーションをあたえたのは、1950年代はじめのことであった。鎖国時代の1632年に生まれ、1695年に没した円空は、その生涯のほとんどを諸国行脚についやし「万有一心」の禅観のなかに発効される「即身成仏」を祈念して、郷里美濃国（現在の岐阜県）の弥勒寺で入寂している。生涯に「12万體造仏」を修行の作善としたといわれているが、円空の鑿のみの音が伝わってきそうな仏像彫刻を目にしたときに、はるかな歴史的時間を超へて、なぜに現代のわたしたちは衝撃を享けるのか？この問いに応えるのは、もちろん容易ではない。しかし要約した言い方が許されるなら、こう言えるかもしれない。合理を目的とする現代人の心に、原初的な生命の大切さを請来し、そして自然に対する力の認識と畏怖の感情を、あらためて円空の仏像彫刻のなかに感得しなくてはならない——と。

このたび第11回を迎えるに当たって、こうした円空の仏像彫刻をあらためて考えてみる機会をもつことになった。と同時に、初代委員長の梅原猛氏、2代目辻惟雄氏に引き継いで委員長を仰せつかったが、選考に際しては、風土性と国際性・伝統性と現代性・在野性と民衆性そして自然とのかかわり——など、いくつかの視点を用意し、総合的な判断を導くことを意図して選考委員各氏の意見を仰ぐことにした。コロナ禍を危惧してリモート会議となって、いささかの不便を我慢して戴いたが、熱心な討議をかさねた結果、円空大賞をはじめ円空賞を決めることができたことを心から喜ぶたい。いかなる賞も然るべき受賞者によって、その賞というものの価値は定まり高められると言われる。今回の受賞者の皆さんは、それぞれが魅力的な作品を制作し、斬新な発想と研鑽を積んだ手法にもとづく優れた仕事を展開している。さらなるご活躍を期待する次第である。

選考委員長 酒井 忠康（世田谷美術館長）



第11回 円空大賞の受賞者

受賞者

円空大賞

テキスタイルデザイナー 須藤 玲子 (すどう・れいこ) ……P3

円空賞

彫刻家	David Nash (デイヴィッド・ナッシュ) ……P5
陶芸家	中島 晴美 (なかしま・はるみ) ……P7
彫刻家	舟越 桂 (ふなこし・かつら) ……P9
現代美術家	三島 喜美代 (みしま・きみよ) ……P11

第11回 円空大賞



Photo by Masayuki Hayashi

〈選評〉

パトリシア・フィスター

(国際日本文化研究センター名誉教授)

「Extraordinary」や「visionary」は、日本で最も影響力のあるテキスタイルデザイナーである須藤玲子の作品を表すのに最適な言葉である。故新井淳一と出会った後、彼女のキャリアは劇的な変化を遂げ、彼らは共同で株式会社 布 (NUNO) を設立した。須藤の指導のもと、NUNOは最先端のテクノロジーを駆使し伝統的な織物の技術、素材、美学のセンスを再解釈し、テキスタイルデザインにおけるパラメーターを拡大した。絹、化学繊維、和紙、羽、リサイクルされたペットボトル素材、アルミニウム等、多種の素材を試み、全国の生産地で熟練した織工や染織職人と協力し、多くの技術や技法を模索してきた。そこから生まれる須藤のレパトリーは驚くほど幅広い。国内の職人とのコラボレーションにより、須藤は日本の貴重な工芸遺産を保護している。繊維生産での廃棄物を減らす方法を模索するなど、環境やサステナブルという現在の重要な課題への関心も須藤の作品に浸透している。

テキスタイルデザイナー

すどう れいこ
須藤 玲子 SUDO Reiko

日本：茨城県出身

1953年生まれ

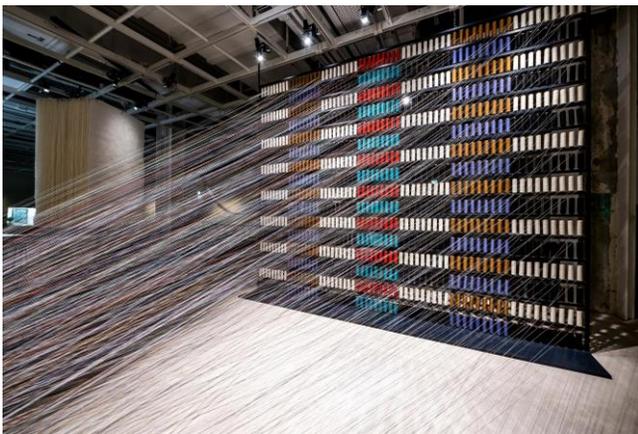
〈経歴〉

- 1953 茨城県石岡市に生まれる
- 1974 武蔵野美術短期大学 工芸デザイン科卒業
- 1975 武蔵野美術短期大学 デザイン学部専攻科修了
武蔵野美術大学 造形学部工芸工業デザイン学科
テキスタイル研究室勤務 (～'77)
- 1988 武蔵野美術大学 非常勤講師 (～'07)
- 2001 個展「布・技と術」(京都芸術センター)
- 2004 英国UCA芸術大学 (University College for the Creative Art) から名誉修士号を授与
- 2005 個展「2121-The Textile Vision of Reiko Sudo and NUNO」
(James Hockey Galleries/イギリス)
- 2006 マンダリン オリエンタル 東京のテキスタイルデザインを手がける
- 2007 東京造形大学 教授 (～'19)、2006毎日デザイン賞受賞
- 2008～ 株式会社良品計画のファブリック企画開発、山形県、
鶴岡織物工業協同組合など企業や染織産地のテキスタイル
開発のデザインアドバイスに携わる
- 2008 Japan! Culture + Hyper Culture 「Koi Current」
(ジョンF. ケネディ記念舞台芸術センター/アメリカ)
- 2009～ 株式会社アズのテキスタイルデザインに携わる
- 2011 KAUNAS Biennial 「Reiko Sudo and Nuno: Rewind-Play-
Forward」(国立チュルリョーニス美術館/リトアニア)
- 2012 Japanese Style: Sustaining Design, Nuno 「ZOKU ZOKU」
(ダブコット・スタジオ/スコットランド)
- 2014 須藤玲子+アドリアン・ガルデル 「こいのぼり」
(国立ギメ東洋美術館/フランス)
- 2016 株式会社良品計画のデザイン・アドバイザーボードに就任
- 2018 「こいのぼりなう! 須藤玲子×アドリアン・ガルデル×
斎藤精一によるインスタレーション」(国立新美術館/東京)
六本木アートナイト2018 「街中こいのぼり」ワークショップ
2018 (東京ミッドタウン)
アート&デザインの大茶会 “踊るこいのぼり” (大分県立美術館)
- 2019 Making Nuno Japanese Textile Innovation from Sudo
Reiko (CHAT- Centre for Heritage, Arts and Textile/香港)
- 2020 6つの個展2020 「扇の舞」(茨城県近代美術館)
ファブリック: タッチ&アイデンティティ 「扇の舞」
(コンプトン・ヴァーニー・アート&ギャラリー/イギリス)
- 2021 Making Nuno Japanese Textile Innovation from Sudo
Reiko (ジャパン・ハウス・ロンドン/イギリス)
北陸工芸の祭典GO FOR KOGEI 2021 「扇の舞2021」(勝興寺/富山)

第11回 円空大賞



こいのぼりなう！
須藤玲子×アドリアン・ガルデール×
齋藤精一によるインスタレーション
国立新美術館 企画展示室2E(東京)
2018.04.11 - 2018.05.28
テキスタイルインスタレーション
天然繊維、化学繊維、再生繊維
Photo by Ken Kato

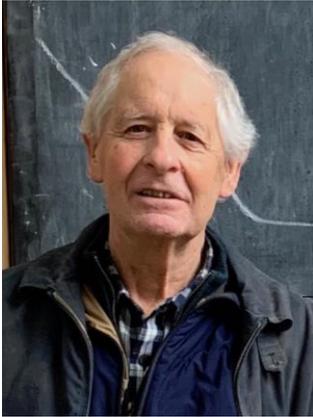


須藤玲子の仕事—NUNOのテキスタイルができるまで
CHAT (Centre for Heritage, Arts and Textile)/MILL6 Foundation (香港)
2019.11.24 - 2020.03.01
テキスタイルインスタレーション
天然繊維、化学繊維、再生繊維
Photo by CHAT (Centre for Heritage, Arts and Textile), Hong Kong



6つの個展2020「扇の舞」
茨城県近代美術館 (茨城)
2020.11.03 - 2020.12.20
テキスタイルインスタレーション
天然繊維、化学繊維、再生繊維
Photo by Masayuki Hayashi

第11回 円空賞



©Sam Clayton,
courtesy David Nash

〈選評〉

酒井 忠康

(世田谷美術館長)

デイヴィッド・ナッシュは、倒木や間伐材を素材に巧みなチェーンソーさばきと斧で制作し、ときにはガスバーナーを使ったりする彫刻家である。「梯子」「ストーブ」「テーブル」などのシリーズ作品は、いずれも木の枝や幹などを活かして素材自体にはできるだけ手を加えない手法で制作されている。人里離れた北ウェールズの子山奥にアトリエを構え、徹底した自然主義の姿勢を貫いているが、一例を挙げると、トネリコの木を円形状に植え、何十年もかけて形成する「アッシュ・ドーム」という自然との対話を試みた作品がある。ここにみられるのは、ナッシュが人間という小さな生命体を、樹木の自然性を回路にして、より大きな宇宙の照応体と見做す一種の信仰にも似た姿勢で、換言すれば東洋的な思索の運動と称してもいい。1980年代はじめから数次にわたって来日。現地制作を主にした展覧会（あるいは講演など）を介して、大きな反響をもたらしたこともあった。

彫刻家

デイヴィッド・ナッシュ

David Nash

イギリス：イーシャー出身

1945年生まれ

〈経歴〉

- 1945 イギリスのイーシャーに生まれる
- 1963 キングストン美術学校基礎コースで学ぶ（〜'64）
- 1964 ブライトン美術学校絵画科で学ぶ（〜'65）
- 1965 キングストン美術学校彫刻科で学ぶ（〜'67）
- 1969 チェルシー美術学校で学ぶ（〜'70）
- 1973 初個展「即席リンゴ料理」（ヨーク・フェスティバル／イギリス）
- 1980 ブリティッシュ・アート・ナウ（グッゲンハイム美術館／アメリカ他巡回）
- 1982 「今日のイギリス美術」展（東京都美術館、栃木県立美術館、国立国際美術館／大阪、福岡市美術館、北海道立近代美術館）
- 1983 個展「60の季節」（サード・アイ・センター／スコットランド他巡回）
- 1984 個展「樹のいのち、樹のかたち」（栃木県立美術館、宮城県美術館、福岡市美術館、草月会館／東京）
- 1986 個展「木から船へ」（ジュダ・ローワン・ギャラリー／イギリス）
開館記念展芸術と素朴（世田谷美術館／東京）
- 1989 広島・ヒロシマ・HIROSHIMA-国内外の制作委託作家78名によるヒロシマの心-（広島市現代美術館）
- 1990 個展「デイヴィッド・ナッシュの彫刻1971-90年」（サーペンタイン・ギャラリー／イギリス他巡回）
- 1991 個展「プランテッド&カーヴド」（西村画廊／東京）
- 1993 個展「ドローイング展」（西村画廊／東京）
- 1994 個展「航海と船」（ジョスリン美術館／アメリカ他巡回）
個展「音威子府の森」（北海道立旭川美術館、名古屋市美術館／愛知、芦屋市立美術博物館／兵庫、埼玉県立近代美術館、神奈川県立近代美術館、茨城県つくば美術館）
- 1999 ロイヤル・アカデミー会員(RA)に選ばれる（イギリス）
- 2001 個展「フロム・ウエールズ」（西村画廊／東京）
- 2004 大英帝国勲章受章（イギリス）
- 2014 個展「From Kew Gardens to Meijer Gardens」（フレデリク・マイヤー庭園と彫像公園／アメリカ）
- 2016 チャールズウォラストン賞受賞（Royal Academy of Arts／イギリス）
- 2019 個展「Sculpture through the Seasons」（カーディフ国立博物館／イギリス）

第11回 円空賞



Two Ubus (1988)
345 × 180 × 74cm, 340 × 240 × 72cm オーク、灰
Made at Pierre-de-Bresse, near Mâcon, France
Collection Capel Rhiw
撮影: Noel Brown

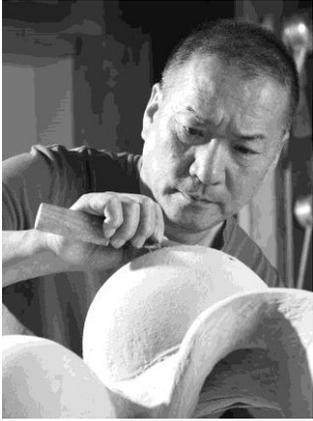


Cracking Box (1990)
345 × 180 × 74cm, 340 × 240 × 72cm オーク
Made at Capel Rhiw, Blaenau Ffestiniog, North Wales
Collection Capel Rhiw
撮影: Jonty Wilde



Cork Spire (2012)
H6m, D4.5m コルクの樹皮
キューガーデン(ロンドン)での展示風景
Collection Capel Rhiw Kew 撮影: David Nash

第11回 円空賞



陶芸家

なかしま

中島

はるみ

晴美

NAKASHIMA Harumi

日本：岐阜県出身

1950年生まれ

〈選評〉

高橋 秀治

(豊田市美術館長)

歴史的な陶磁器産地にほど近い岐阜県恵那市に生まれ育った中島晴美は、大阪芸術大学在学中に本格的に陶芸に取り組むようになった。現代陶芸に大きな影響を与えた故八木一夫らに刺激を受けて、産地に伝えられる伝統的な器ではなく造形的な作品を追求するようになった。それは単に現代美術の立体造形を焼き物で作ったというのではなく、粘土という幼いころから親しんだ素材の持つ可塑性とその焼成によって表現される形態の変化に自身の想いを託してきた。日本の伝統にある工芸的なモノづくり、職人的なモノづくりに終始することなく、土という素材との意識的な対話を通じて得られる、人間が原初的に持っている魂に訴えかける作品作りを目指してきた結果である。工芸の一つの在り方として、土と対峙することでやむなく生み出される形態がまさしく《苦闘する形態》であった。創作者として形態を生み出す一方、教育者となって数多くの後進に大きな影響を与えてもきた。それは、単に自らに似た作りをする者を育てたのではなく、なぜ土を使って形作るのかという自身の問いを引き渡してきたとあってよいだろう。

〈経歴〉

- 1950 岐阜県恵那市に生まれる
- 1973 大阪芸術大学 デザイン科陶芸専攻卒業
- 1980 毎日ID賞特選2席受賞
- 1989 国際陶磁器展美濃'89陶芸部門銅賞受賞
- 1994 クレイワーク (国立国際美術館/大阪)
- 1995 国際陶磁器展美濃'95陶芸部門金賞受賞
- 2001 European Ceramic Work Centerに招聘・制作 (オランダ)
現代陶芸の精鋭-21世紀を開くやきもの手法とかたち
(茨城県陶芸美術館)
- 2002 現代陶芸の100年展 (岐阜県現代陶芸美術館)
- 2003 愛知教育大学美術教育講座造形文化コース 教授 (~'16)
JAPAN contemporary Ceramics and Photography between
Traditional and Today (ダイヒトアリーレン/ドイツ)
- 2004 MINO CERAMICS NOW 2004 (岐阜県現代陶芸美術館)
- 2005 Terra Nova. Sculpture & Vessels in Clay (Museum of
arts and design/アメリカ)
- 2007 開館30周年記念展 工芸の力-21世紀の展望 (東京国立近代
美術館工芸館)
- 2010 2009年度日本陶磁協会賞受賞
- 2011 個展 (Galerie NeC/フランス)
- 2012 日本のわざと美：近代工芸の精華展 (ピッティ宮殿 白の間/
イタリア)
ヴァロリス国際陶芸ビエンナーレ (マニエリ美術館・陶芸
博物館/フランス)
- 2013 ボーダーラインコレクション展 (金沢21世紀美術館/石川)
New Blue and White (Museum of Fine Arts, Boston/アメリカ)
- 2015 Reshaping Tradition: Contemporary Ceramics from East
Asia (USCパシフィック・アジア美術館/アメリカ)
The Imagination of Blue and White (New Taipei City
Yingge Ceramics Museum/台湾)
- 2016 多治見市陶磁器意匠研究所 所長 (~現在)
- 2018 To Ideal Land of Ceramics Exhibition of International
Contemporary Ceramic Works (TSINGHUA UNIVERSITY ART
MUSEUM/中国)
CERAMICS NOW:THE FAENZA PRIZE IS 80 YEARS OLD
(International Museum of Ceramics in Faenza/イタリア)
- 2020 個展「中島晴美：50年の軌跡」(現代美術 艸居、艸居アネ
ックス/京都)

第11回 円空賞



ざわざわするかたち-2101(2021)
64×50×91cm 磁器
目黒陶芸館蔵(三重)



ざわざわするかたち-J(2021)
76×45×50cm 磁器
ギャラリーヴォイス蔵(岐阜)



内なるかたち-2031(2020)
75×48×47cm 磁器
ギャラリーヴォイス蔵(岐阜)

第11回 円空賞



彫刻家

ふなこし かつら
舟越 桂 FUNAKOSHI Katsura

日本：岩手県出身

1951年生まれ

〈選評〉

高橋 秀治

(豊田市美術館長)

舟越桂の父保武は、大理石やブロンズ彫刻の優れた彫刻家であり、また敬虔なクリスチャンとして知られ、信仰に関わりのある作品も残した。その父の影響もあって桂は、早くから彫刻を志したが、父とは違い素材を木に求め、それも伝統的に仏像彫刻に用いられてきた楠を使い、着色と大理石の玉眼を使うというスタイルを確立して国内外で高い評価を得てきた。作品は人体像で、はっきりとしたモデルのあるものから、舟越自身が創り出した人間のものであっても、頭が二つあったり、両性具有的な表現がなされていたり、あるいは建物と一体化していたりするなどの特異な人が表現されてきた。初期にはキリスト教的な精神を感じさせるものであったが、後年は、より表現の幅が広がり、自然世界と交信する精神世界の現れ(イギリスの彫刻家デイビッド・ナッシュなどの精神性とも通底する)、あるいは祈り(特定の宗教ではなく、人の精神に宿っている素直な感覚として)といったものが感じられる作品を作り出して見る者に語りかけてくる。

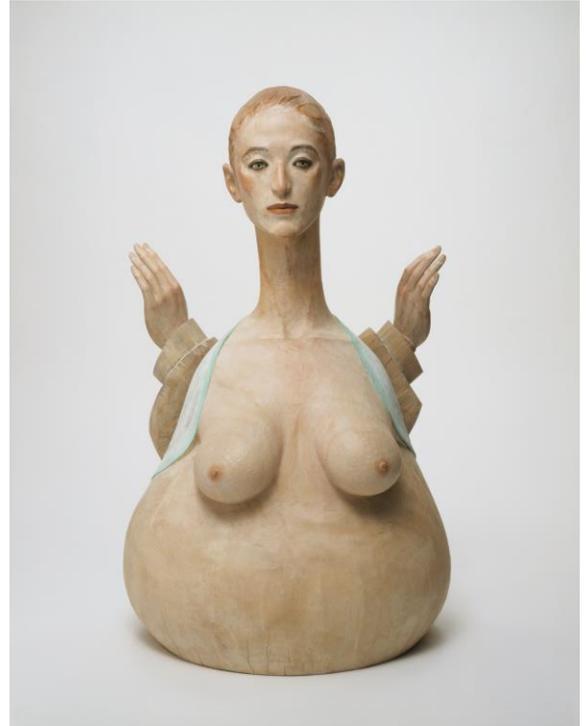
〈経歴〉

- 1951 岩手県盛岡市に生まれる
- 1975 東京造形大学 彫刻科卒業
- 1977 東京藝術大学大学院 美術研究科彫刻専攻修了
- 1985 個展(西村画廊/東京)
- 1986 文化庁芸術家在外研究員としてロンドンに滞在
- 1988 第43回ヴェネツィア・ビエンナーレ(イタリア)
- 1989 個展(アーノルド・ハースタンド画廊/アメリカ)
第20回サンパウロ・ビエンナーレ(ブラジル)
- 1991 タカシマヤ文化基金第1回新鋭作家奨励賞受賞
- 1992 ドクメンタIX(ドイツ・カッセル)
第9回シドニー・ビエンナーレ(オーストラリア)
- 1994 個展(アンドレ・エメリック・ギャラリー/アメリカ)
- 1997 第18回平櫛田中賞受賞
- 2000 上海ビエンナーレ(上海美術館/中国)
個展(アネリー・ジュダ・ファイン・アート/イギリス、
レックリングハウゼン美術館/ドイツ、ハイルブロン市立
美術館/ドイツ)
- 2003 第33回中原悌二郎賞受賞
個展「舟越桂 1980-2003」(東京都現代美術館、栃木県立
美術館、北海道立旭川美術館、高松市美術館/香川、岩手県
立美術館、広島市現代美術館) (~'04)
- 2005 舟越桂とエルンスト・バルラッハ展 時間の地図(エルン
スト・バルラッハ・ハウス/ドイツ)
- 2008 個展「舟越桂 夏の邸宅」(東京都庭園美術館)
- 2009 芸術選奨文部科学大臣賞、毎日芸術賞受賞
- 2010 Alternative Humanities~新たなる精神のかたち:ヤン・
ファールブル×舟越 桂(金沢21世紀美術館/石川)
個展(熊本市現代美術館)
- 2011 紫綬褒章受章
- 2012 個展「舟越桂2012(開館25周年記念展)」(メナード美術館
/愛知県)
- 2015 個展「舟越桂 私の中のスフィンクス」(兵庫県立美術館、
群馬県立館林美術館、三重県立美術館、新潟市美術館) (~'16)
個展(ヴィースバーデン美術館/ドイツ)
- 2019 個展(ヴァン・ドーレン・ワクスター/アメリカ)
- 2020 個展「舟越桂 私の中にある泉」(渋谷区立松濤美術館/東京)

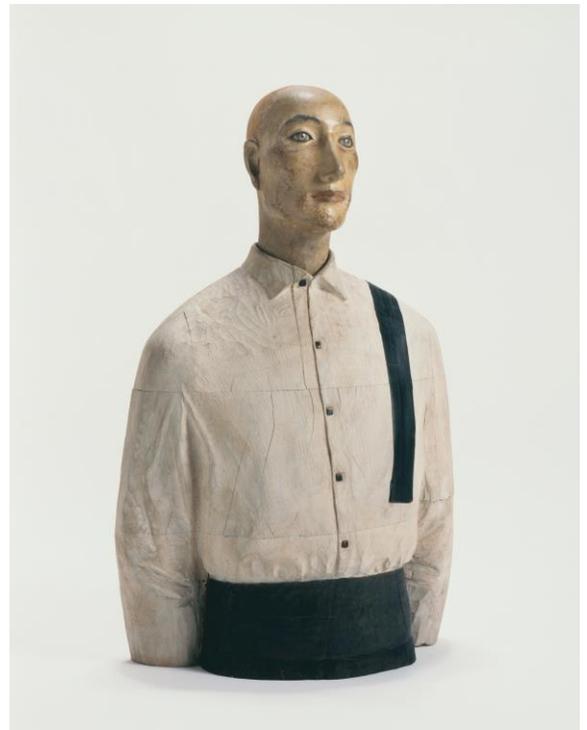
第11回 円空賞



海にとどく手 Hands Can Reach the Sea (2016)
193 × 112 × 89cm 楠に彩色、大理石、雑木
作家蔵
撮影：齋藤 さだむ



水に映る月蝕 A Lunar Eclipse on the Water (2003)
90 × 55 × 47cm 楠に彩色、大理石／作家蔵
撮影：今井 智己



森へ行く日 The Day I Go to the Forest (1984)
79 × 49 × 24cm 楠に彩色、大理石、ゴム・チューブ
東京国立近代美術館蔵
撮影：早川 宏一

第11回 円空賞



現代美術家

みしま きみよ
三島 喜美代 MISHIMA Kimiyo

日本：大阪府出身（大阪府・岐阜県在住）

1932年生まれ

〈選評〉

長屋 光枝

(国立新美術館 学芸課長)

現代美術家、三島喜美代は、大量の情報や商品があふれる今日の社会を、陶という意表をついた媒体を用いて批評してきた。1950年代後半より、新聞や雑誌などをコラージュした実験的な油彩画で注目され、1970年代初めからは、そうした活字をシルクスクリーンで陶に転写した立体作品を手掛けた。陶は、脆く壊れやすい一方、丁寧に扱えば永続して存在する。そこに三島は、日々発行されては捨てられる印刷物を組み合わせ、大量消費社会の矛盾や、膨大な情報に埋没する不安や危機感を露わにしたのだ。また、環境問題に関心を深めた三島は、身近なゴミを陶で忠実に再現してみせたが、近年、産業廃棄物を高温で処理してできる熔融スラグを素材に、ゴミ箱を模した巨大な作品も発表した。好奇心と遊び心が身上の三島は、岐阜県土岐市にあるアトリエの広い敷地に大量のゴミを集めて創作の源とする。一見ユーモラスな作品は、今日の社会の現実と、そこに生きるこの本質を問うている。

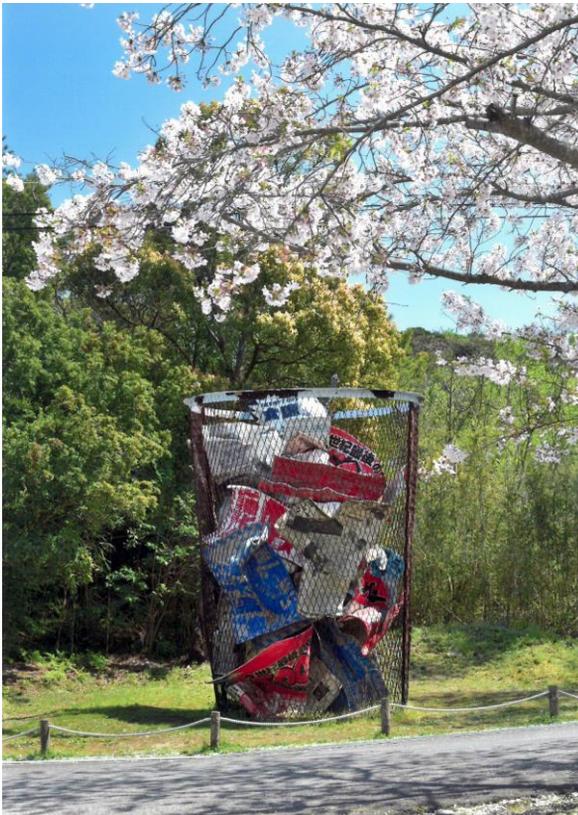
〈経歴〉

- 1932 大阪府大阪市に生まれる
- 1963 独立展 独立賞・須田賞受賞（東京都美術館）
- 1965 第9回シェル美術賞展 佳作賞受賞（白木屋／東京）
- 1974 ファエンツァ国際陶芸展 ゴールドメダル受賞（ファエンツァ国際陶芸美術館／イタリア）、個展「KIMIYO MISHIMA」（南画廊／東京）
- 1975 第11回現代日本美術展 佳作賞 受賞（東京都美術館）
- 1978 女性作家招待展・日本（A・I・Rギャラリー／アメリカ）
- 1980 まがいもの光景：現代美術とユーモア展（国立国際美術館／大阪）
- 1982 現代の陶芸 I-いま、土と火でなにが可能か-（山口県立美術館）
- 1985 個展（ギャラリー上田・ウェアハウス／東京）
- 1986 ロックフェラー財団（ACC）の助成を受けてニューヨークに留学
- 1987 土と炎展（岐阜県美術館）
- 1988 日本現代陶彫展'88金賞受賞（土岐市文化プラザ／岐阜）
- 1989 アート・エキサイティング'89現在を超えて：日豪交換現代日本美術展（埼玉県立近代美術館、クイーンズランド・アート・ギャラリー／オーストラリア）
- 1992 現代日本陶芸展（エヴァーソン美術館／アメリカ）
- 1996 現代日本の陶彫作家展（彫刻の森美術館／神奈川）
- 彩の国 さいたま彫刻バラエティ'96大賞受賞（埼玉）
- 2001 第19回現代日本彫刻展 山口県立美術館賞・市民賞受賞（宇部市野外彫刻美術館／山口）
- 2002 開館記念展 I 現代陶芸の100年展・第1部：日本陶芸の展開（岐阜県現代陶芸美術館）
- 2005 日本現代陶芸（ボストン美術館／アメリカ）
- 2007 メキシコ 日本彫刻の友愛展（メリダ市野外／メキシコ）
- 2008 大阪・カレイドスコープ展2008-大阪時間(大阪府立現代美術センター)
- 2013 個展「Painting Period 1954-1970」（ギャラリーヤマキファインアート／兵庫）※'17,'18,'20年個展開催
- 2015 個展「三島喜美代展 ペインティング、セラミック&インスタレーション」（ART FACTORY城南島／東京）以降常設展示
- 2016 個展「三島喜美代」（タカ・イシイギャラリー／アメリカ）※'18年（アメリカ）、'21年（香港）個展開催
- 2017 個展「Early Works」（MEM／東京）※'20,'21年個展開催
- 個展「KIMIYO MISHIMA」（現代美術 艸居／京都）※'20年（ポルトガル）、'21年（京都・東京）個展開催
- 2019 集めた！日本の前衛-山村徳太郎の眼 山村コレクション展（兵庫県立美術館）
- 2020 2020年度 第4回コレクション展：特集 三島喜美代（京都国立近代美術館）
- 2021 アナザーエナジー展：挑戦しつづける力-世界の女性アーティスト16人（森美術館／東京）
- 令和3年度 文化庁長官表彰受賞

第11回 円空賞



20世紀の記憶(1984-2013)
25 × 11 × 0.25m 古い耐火レンガにシルクスクリーン
ART FACTORY城南島(東京) 展示風景/作家蔵 撮影:小川 重雄 ※画像提供:美術資料センター(東京)



もうひとつの再生2005-N(2001-2005)
H450 × D350cm 陶(熔融スラグと廃土)、鉄
直島(香川) 展示風景/株式会社ベネッセホールディングス蔵



Newspaper-P-91(1990-1991)
117 × 113 × 96cm
陶にシルクスクリーン印刷、銅、鉄、セメント/大原美術館蔵(岡山)